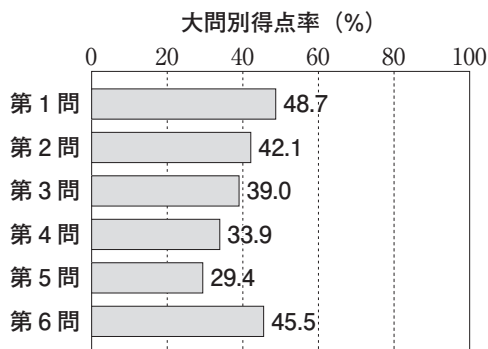
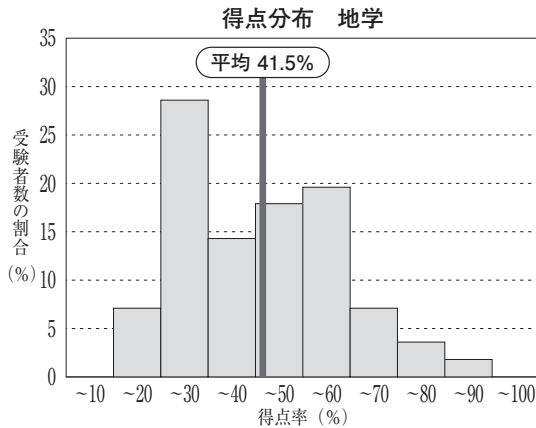


地 学

最後まで練習を積み、1点にこだわろう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は41.5点であった。「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。最後まで気を抜かず得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 固体地球

知識を論理的に捉えよう。

Aでは地球の内部構造と物質化学組成の関係についての総合的理解を確認した。地殻・マントル・核のおよその化学組成を確認しておこう。なお、火成岩の化学組成に関する問題は2018年のセンター試験で出題されている。また、鉱物の化学組成についても確認しておこう。

Bでは岩石中の放射性同位体とその崩壊についての基礎的知識を確認した。放射性同位体に関する問題は、2017年、2016年、2015年のセンター試験でも出題されている。放射性同位体を用いた絶対年代の測定方法も確認しておこう。

Cでは走時曲線とモホロピッチのモデルの関係についての基礎的理解を確認した。P波の走時に関する問題は、2016年のセンター試験でも出題されている。走時曲線の傾きと地震波速度の関係を理解しておこう。

Dでは海嶺についての総合的理解を確認した。プレート発散境界、沈み込み境界、すれ違い境界についてまとめておこう。

第2問 地層・地質図・岩石・鉱物

図を描いて考えよう。

Aでは四万十帯と付加体の地質構造についての理解を確認した。解説の図を参考に、日本列島の地質区分を確認しておこう。なお、ジュラ紀から新第三紀の日本列島の歴史に関する問題は、2016年のセンター試験で出題されている。

Bでは地質図から断層の走向・傾斜を読み取る力を確認した。地質図に関する問題はセンター試験では頻出である。実際に手を動かして作図をしてみよう。

Cでは変成岩と変成作用についての総合的理解を確認した。接触変成作用と広域変成作用について、それぞれの仕組みをまとめておこう。変成岩は、ぜひ実物を手に取って観察する機会を持ってもらいた

い。鉱物の偏光顕微鏡観察についても理解を確認しておこう。

第3問 大気と海洋

グラフや図を読み取ろう。

Aでは大気の大循環と海洋による熱の輸送について基礎的理解を確認した。大気と海洋による熱輸送に関する問題は、2016年のセンター試験でも出題されている。横軸が緯度（面積比）のグラフの読み取りに慣れておこう。

Bでは台風と風の吹き方について基礎的理解を確認した。地衡風、傾度風・地上付近の風の吹き方をまとめておこう。なお、地衡風と地上付近の風については、2018年のセンター試験で出題されている。

Cでは温室効果の原理の理解を確認した。地球のエネルギー収支の図の見方を理解しておこう。なお、シュテファン・ボルツマンの法則を使う問題は、2016年のセンター試験でも出題されている。

第4問 宇宙

計算問題に取り組みよう。

Aでは散開星団と球状星団についての総合的理解と星団のHR図から距離を求める方法の理解を確認した。球状星団に関する問題は2018年と2017年のセンター試験で、HR図に関する問題は2015年のセンター試験で出題されている。解説の表を参考に、散開星団と球状星団の特徴を確認しておこう。

Bではケプラーの法則の理解と計算力を確認した。ケプラーの法則は使いこなせるよう練習しておこう。また、解説にあるような図を自分で描いて考えられるようにしておこう。

第5問 光行差と太陽の観測

仕組みを理解して覚えよう。

Aでは光行差についての基礎的理解を確認した。年周光行差に関する問題は2016年のセンター試験でも出題されている。太陽から離れるほど惑星の公転速度が小さくなることも理解しておこう。

Bでは太陽の観測法についての理解を確認した。太陽の観測に関する問題は2017年のセンター試験でも出題されている。教科書や資料集で、彩層やフレア、紅炎、コロナなどの写真を確認しておこう。

第6問 高層天気図と雨

地球環境について関心を持とう。

Aでは高層の気圧分布と風についての総合的理解を確認した。解説の図を参考に、等圧面平均高度の図の読み方を理解しておこう。また、季節による変化も確認しておこう。

Bでは雨についての総合的理解を確認した。積乱雲に関する問題は2015年のセンター試験で、大気安定・不安定に関する問題は2017年のセンター試験で出題されている。酸性雨の原因を理解し、対策を考えてみよう。

なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、学習の進捗状況などに合わせて取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆これからの学習について。

入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例えば、センター試験では試験時間60分のうち、10分程度を見直しにあてられれば理想的である。そのためには普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。また、入試本番では、塗り残し、マークのずれはないか、など確実にマークできているかの確認を必ず行おう。

◆模試を活用しよう。

これから先の期間は、新しい問題集などに手をつけるのは避けよう。今まで取り組んできた問題の復習に注力してほしい。見たことはあるが、解けなかったという悔しい思いをしないように、今まで自分が学習してきた内容を最後の最後まで徹底的に復習しよう。特に、これまでの模試の解説を見直すことは直前対策として有効である。センター試験では過去問と類似した内容が出題されている。傾向を把握し、時間配分の訓練をするためにも、過去問は徹底的に演習を積もう。また、解説をしっかり読み込み、疑問点を残さないようにしよう。やりっぱなしでは効果がない。

今まで受けてきた模試の結果から、自分の得手不得手が改めてみえてくるはずである。それらの結果をもとに再度弱点を補強しておこう。